

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 4 月 30 日

事業所名 児童デイサービス にじ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1		利用人数がいる時は室内とお散歩や外出のグループへ分け工夫。	ワンフロアを活動ごとに分けている。死角がなく子どもの異変等に気づき安い広さである。
	2	職員の配置数は適切である	8			・利用児童に合わせ職員の時間調整等を行っている。	超重度の児童や医療的ケア児が増え看護師負担が大きくなっている。県の基準配置を満たしているが今後看護師増員を行う予定
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	1		入口からフロアの段差があるが安全に配慮して対応している。	可能な限り段差の解消を行いバリアフリー化を行なった。ただしあえて段差を設ける場所もある。
	4	感染症の徹底(消毒・施設内の環境整備)	8			個々で使用した寝具等もどの都度消毒している。	感染症疑いのある児童がいる場合他児童と接触のないように環境やスタッフに配慮している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1		各専門分野での療育においての日々の記録から特記事項を抽出し目標設定から振り返りまでスムーズに行なっている。	各分野での療育の記録から重要な内容の取りこぼしがないように記録をシステム化する事で業務の流れがスムーズになるとともに職員がPDCAサイクルへの参画が活発になった。
	6	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8			保護者へのアンケート結果を基に意見や以降を全員で把握し業務改善している。	アンケート調査以外に、電話や家庭訪問などで保護者の意向を確認し改善に努めている。今後も継続していく
	7	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8			障害者、Comに公開している。また、事業所の通信での公開しているが、総評もしている。	障害者.com掲載の通り。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	3		今回第三者委員会を立ち上げた。	今回第三者委員会を設けたため、今後外部評価を行いたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8			研修の機会があれば参加したい。	重症心身障害児や医療的ケア児を対象とした保育士キャリアアップ研修への参加、他事業所の保育の内容を知るため訪問、見学を行い、デイでの保育士の向上に努める。
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8			日々の日誌を電子化することで利用者のニーズや課題が抽出され、分析がしやすくなった。	各専門職と話し合い個々に合った支援書作成を行っている。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8			重心児童のデイ為、個々の成長に合わせたアセスメントを作成している。	認知(言語・視覚・触覚・聴覚・味覚・臭覚・運動)のツールを使用。
	12	活動プログラムの立案をチームで行っている	8			各専門職で話し合いプログラム作成している。	個別、集団、地域、訓練等前月年間を決めている。
	13	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8			物作りだけではなく遊びを工夫(ゲーム)を行っている。	固定化しないようにかかわっている職員間で情報を伝えあっている。
	14	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8			短時間で出来る活動や野外活動等を利用時間に合わせて設定している。	・休みや長期休暇にはイベントを設定し支援している。 ・平日目標、休日・長期目標を支援書作成時に家族・職員と決め行っている。
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8			個々に合わせて偏らないよう、バランスよく取り組んでいる。	得意・不得意・医ケア・軽度・重度を見ながら個別・集団活動を作っている。
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8			朝礼で受入児童の把握を行っている。	毎朝、ミーティングを行い前日の様子、本日の活動役割、家族からの引継ぎを伝えている。
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8			支援終了後関わった児童の情報共有を行っている。	日誌作成を行いながら一日の振り返り、特記事項の共有を行っている。
	18	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8			連絡帳に日々の支援や行ったことを家族にもわかりやすく写真や動画を載せたり工夫している。	日誌・看護・リハビリ記録・活動の特記を見ながら支援書・評価に繋げている。
	19	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8			モニタリングを行い、保護者と一緒に成長や療育を実感しながら見直しを行い、支援書作成をしている。	半年に一度定期的にもモニタリングを行っているが、状況に応じてモニタリングを設定し対応を行っている。今後も臨機応変に対応していく。
20	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	8			アセスメントシートと保護者の課題ニーズ、サービス計画書をもとに支援を行っている。	今後は県の示す児童発達支援ガイドラインも視野に入れ基本活動を複数組み合わせ合わせた活動支援を行っている。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8			自発管が主に参加し各専門分野からの評価を会議で伝えてもらっている。また、会議の内容報告を職員共有している。会議の議題によっては専門職が出席している。	人員が十分確保されている状況であれば、支援スタッフも参加できるようにし機関との情報共有を図って行きたい。また県の基準でパート職員が参加する事で事業所の配置基準が満たされないとの事でパートの専門職を会議へ参加させる事ができない。
	22	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	1		保護者からのラインや学校連絡ツールを利用して調整している。	保護者より学校の日程表をもらい下校時間や休みを確認している。
	23	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7	1		契約時に医師の指示書を依頼し、変更時等の場合は保護者を通して、主治医へ相談していただいている。	左記の通り今後も保護者、主治医との連携体制を整えていく。
	24	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	1	1	関係機関との情報共有や、実際に会いに行き状況を確認し支援に繋げている。	今後も情報共有を行い支援に繋げていく。
	25	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	2	1	障害者福祉サービス事業所等への移行児童がまだいないが必要に応じて対応していく。	現在対象児童がいない。今後必要に応じて実施していく。
	26	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	1	児童の発達の件で助言をいただき家族へ伝えている	今後は事業所内での支援会議等のアドバイスがいただけるよう連携して行きたい。
	27	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	8			近隣の学童クラブとの交流あり。	近隣の学童へ行き水遊び等、交流でまた病院でのイベントに参加した。
	28	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7		1	地域市町村の子供部会にZOOM等を活用し、積極的に参加している。	自立支援協議会への参加に繋げたい。
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8			児童の発達状況やできたこと、課題等伝えている。	送迎時やメールで今日の様子を報告し情報交換している。
	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7	1		実技で支援できる機会を設けていく必要がある。	家庭での様子などを聞いて困り事があればアドバイスを行っている。
保護者への 説明責任等	31	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			契約時、または内容が変わった時など、丁寧に説明している。必要に応じて同意書をいただいている。	保護者が安心して利用できる様、不明な点などわかりやすく説明している。
	32	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			親と顔を合わせる時には声掛けを行い助言したり職員間で話し合う。	悩み事などあれば相談にのり必要に応じてアドバイスを行っている。
	33	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	1		・保護者の実で活動できる機会を検討していく。 ・保護者同士が情報交換できる様ライングループへの参加を促した。	イベント時には多くの保護者が参加できるよう週末に開催したり、パンフレットを作成している。
	34	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8			苦情内容を職員間で情報共有し改善点や再発防止に努めた。	・月1回会議を発行し活動やイベント等、写真を入れわかりやすく発信している。 ・日々の引継ぎの中で保護者の困り感や気になる事を聞き解決へ取り組んでいる。
	35	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8			月刊誌を発行し活動写真を載せ情報を発信している。	毎月広報発行し、活動の様子や連絡事項を掲載している。
	36	個人情報に十分注意している	8			事業所内は勿論、外部発信時その都度、家族の了解へて、情報の取り扱いを行っている。	左記の通り個人情報の取り扱いは慎重に行っている。今後5年経過した書類等についての処分方法を検討していく。
	37	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8			言葉で伝える事や、時には絵文字(指文字)写真、文面等を使い伝えている。	必要に応じて電話やライン(言葉や文書)で伝えている。
	38	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	1	1		

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	39	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8			緊急時対応マニュアル有。	連絡帳の後ろの方にすぐ確認できるよう感染マニュアルをはさみ保護者に周知。
	40	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8			各災害に合わせた訓練を実施している。	報告書を作成し、課題が上がった時は解決に努めている。
	41	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8			・研修と別に身体チェック表を行っている。	今後も事業所内研修、外部講師による研修会の参加を積極的に行っていく
	42	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6		2	やむおえない身体拘束(バギーや筋緊張の固定など)が必要と判断した場合は保護者へ説明し個別支援計画書へ記載している。	左記の通り
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8			医師の指示書を確認し緊急対応表等にて対応している。	食物アレルギーに関しては、弁当やおやつは個人で用意したものを食べているが、クッキング等で初めて使用する食材については、保護者に確認している。
	44	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8			支援中のヒヤリハットやインシデント事例は口頭での報告、報告書での報告を義務づけている	事案が起こったら隠さず保護者へ説明し対応についてもしっかり伝えている。ヒヤリハット事例は小さなことでも全て記録する必要がある。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 4 月 30 日

事業所名 児童デイサービスにじ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		時と場合によって談話室を使用している。	・ワンフロアーを活動ごとに分けている。死角がなく子どもの異変等に気づく広さである。
	2	職員の配置数は適切である	8		利用児童に合わせ職員の配置や時間調整している	超重度の児童や医療的ケア児が増え看護師負担が大きくなっている。県の基準配置を満たしているが今後看護師増員を行う予定
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8		・冷たいフローリングから温かみのある畳を敷き玄関はバスマットを使い工夫している。	生活空間等安全が保てているため、現状維持で良いが今後問題が生じた場合は職員間で話し合い問題解決に努めていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8		子ども達が安全に活動できるように距離を保ち行っている。	毎日の清掃や整理整頓をしている。
	5	感染症の徹底(消毒・施設内の環境整備)	8		不定期的こまめに環境整備を行っている。	児童のケアをする際、その都度手指消毒を行い他児童にも関わるようにしている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8		定期的な職員会議を持ち課題や目標について話し合っている。	定期的にミーティングを行い情報共有や業務内容を確認している。
	7	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		職員間で集まりミーティングで改善に繋げ話し合いを行っている。	保護者等からの意見を踏まえて職員で話し合い改善策を検討している。
	8	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		・毎月保護者へ会報誌を作成し配布している。 ・評価や改善の内容を会報で公開している。	結果をまとめ公表している。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	3	今回第三者委員会を立ち上げた。	今回第三者委員会を設けたため、今後外部評価を行いたい。
	10	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		研修を受けた職員より研修内容を報告してもらい全体で内容把握をしている。	重症心身障害児や医療的ケア児を対象とした保育士キャリアアップ研修への参加、他事業所の保育の内容を知るため訪問、見学を行い、デイでの保育士の向上に努める。
適切な支援の提供	11	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8		保護者との面談を定期的に行いニーズを確認している。	定期的なミーティングを行い、最近の状態や今後の課題、目標についてまとめ計画書の見直しを作成している。
	12	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		重症児童のデイの為、個々の成長に合わせたアセスメントを作成している。	記録、個別支援計画書等をシステム化することでアセスメントがスムーズになった。
	13	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8		ガイドラインに沿って子ども・家族に必要な支援。地域を交えての支援設定を行った。	厚生労働省の通達を受け、ガイドラインの説明を行い、モニタリングを行い家庭でのニーズをしっかりと聞き取り、事業所内で会議を持ち、発達・活動・医ケア・リハビリ・家族・地域等の支援に分け、より細やかで個々に合った支援書を作成している。
	14	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8		アセスメント、モニタリングをしっかりと行い支援書作成をしている。	職員が計画内容の目標を把握し支援を行った。
	15	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		前年度と比較しながら行っている。又SNSを利用し新しいものにも挑戦している。	児童に合わせ色々な体験ができる様職員で話し合い活動内容をまとめている。
	16	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		目標に合わせて達成したら次の目標へと展開している。	季節行事などの活動では前回とは違った内容を考え楽しめるように工夫した。
	17	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8		個々に合わせて偏らないよう、バランスよく取り組んでいる。	重症心身障害児・医療的ケア児が対象のデイの為、利用児の体調やケアの状況等に応じて個別・集団それぞれの活動の中で目標の設定を行っている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	18	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		朝礼で受入児童の支援内容等を確認している。	日誌作成し、追加内容やその他気付いた点を確認している。 ・当日の配置や児童の家族からの体調確認し業務に当たっている。
	19	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		・個々児童に合わせた支援を伸ばしている。 ・利用児童の振り返りを行い次回に繋げるため共有	各専門職に分けても記録を徹底している。
	20	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		日報・看護記録に支援内容を記載し振り返りを行っている。	毎月の特記事項を抽出しモニタリングを実施している。
	21	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8		児童発達支援員・看護・リハが本人の状態に応じて参加している。	モニタリングに参加し職員へ報告し今後の改善点などを話し合っている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	22	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		最もふさわしい方が参加しその後職員へ情報共有。	人員が十分確保されている状況であれば、支援スタッフも参加できるようにし機関との情報共有を図って行きたい。また県の基準でパート職員が
	23	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8		全員ではないが会議の中でかかわっている。	定期的に会議に参加し情報共有している。必要があればなるべくしながら支援している。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	8		各関係機関と連携し、情報共有を行っている。	児童の健康状態に応じ必要があれば主治医へ確認取ってもらっている。
	25	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	8		親や訪問看護を通し主治医と連絡体制を整えている。	小学校入学等事前に関係機関と会議を持ち必要な支援等について情報共有した。
	26	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		お迎え時に関係者(先生や看護師)から情報共有し共通理解している。	今後も以降支援として各所との連携機関と情報共有を図っていく。
	27	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		入学前の関係者会議へ参加し共有している。	定期的に会議に参加し情報共有した。
	28	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1		
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	8		近くの学童へ行き交流を図っている。	地域の学童へ行き、他児童と交流し遊んだ。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7	1		
	31	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		送迎時に保護者へ気づいたことや行なったことを伝え共通理解している。	
	32	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	1	口頭支援が多い為実技を取り入れる機会を多くしていればと思う。	支援内容を共有しながら自宅でもできる事のアドバイスや保護者の状態を見ながら負担軽減にも努めている。
	33	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			書面を作成しわかりやすく説明し、わからない事があれば再度詳しく伝えた。
	34	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8			担当者が個別に家庭訪問を行い説明している。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	35	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		対面・電話・自宅訪問等家族の様子に合わせて対応している。	気づいたことを伝え家庭で困っている事や悩んでいる事がないか？話し合っている。
	36	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	1	保護者ラインを作成して交流や情報交換の場として利用している。	・保護者のみで集まる活動が何か考えていく必要がある。 ・事業所が開催する行事など保護者が交流できる場を設け母等がライン等で情報交換している。
	37	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8		体制を整え迅速に対応している。	相談内容を職員で情報共有し問題解決できるように話し合っている。
	38	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		毎月会報を発行し、行事や活動写真や楽しい文章で発信している。	会報誌を作成し日頃の活動写真等を載せている。
	39	個人情報の取扱いに十分注意している	8		事業所内は勿論、外部発信時その都度、家族の了解へて、情報の取り扱いを	左記の通り個人情報の取り扱いは慎重に行っている。今後5年経過した書類等についての処分方法を検討していく。
	40	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		言葉で伝える事や、時には絵文字(指文字)写真、文面等を使い伝えている。	左記の通りである。
	41	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	1	地域公民館を借りる時に区長さんへ声掛けしている。	積極的に地域の方を事業所へ招待して行きたい。
非常時等の対応	42	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8		定期的に行っている。	定期的にマニュアルを確認し必要に応じ訂正や追記し周知している。
	43	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		定期的に行っている。	年に数回訓練している。
	44	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	8		確認を行いすぐに対処できるように坐薬や吸入液等はデイ保管あり	保護者からの情報を確認し不明点があればその都度連絡し確認している。
	45	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8		アレルギーの有無に関わらずイベント前に保護者へ確認した。	クッキング活動の前に保護者へアレルギーの有無を確認している。
	46	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		支援中のヒヤリハットやインシデント事例は口頭での報告、報告書での報告を義務づけている	事案が起こったら隠さず保護者へ説明し対応についてもしっかり伝えている。ヒヤリハット事例は小さなことでも全て記録する必要がある。
	47	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		研修に参加し適切な対応をしていきたい。	研修があれば参加し、虐待防止策を考えていく。
	48	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	1	・対象となる児童がいない。 ・身体拘束の定義を理解し児童が必要であれば保護者へ説明し計画に記載する。	安全性を考慮し必要な場合保護者へ説明し記載している。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。